

ふな ひき

神楽名

船引神楽

伝承地

船引地区

宮崎市清武町船引

指定等

県指定 無形民俗文化財

伝承団体

船引神楽保存会

代表 崎田 政明



めご舞

◆ 神楽の概要・由来・その他

船引神楽は宮崎市清武町の北端、船引地区に鎮座する船引神社で、春季の稲作豊穰の予祝として奉納される(雨天時は公民館で奉納)。冬季に行われる山村の夜神楽に対し、平地稲作地帯に分布する昼間に奉納される日神楽である。

船引神社は、堀河天皇の御代、寛治元年(1087)の創建と伝わる。当初は正八幡神社と称し、現在も地元では八幡様と呼ばれ親しまれている。神社本殿の向拝柱に、雲の中を泳ぐ竜の姿が浮き彫りにされた「雲竜巻柱」(嘉永6年(1853))を見ることができる。社殿裏のクスの木は、樹齢約900年とされ「清武の大クス」として国の天然記念物に指定されている。

船引神楽は船引神社の他、氏子区である庵屋の炎尾神社においても奉納されている(黒北の大將軍神社での神楽奉納は平成30年をもって終了)。その他、船引神社の歳旦祭などの神社祭典で数番が奉納される。船引神楽は、江戸時代中期には既に成立していたと伝わる。明治の中ごろに神楽衰滅の危機があったが、同系の神楽である串間市の串間神社に3名の少年を派遣し、習得させ復活を図った。(串間神社の神楽は現在衰滅)

◆ 芸能の機会・場所

- 船引神社 歳旦祭... 12月31日～1月1日(数番を奉納)
- 船引神社 春神楽... 3月21日(春分の日)
- 庵屋炎尾神社 船引神楽奉納... 3月中旬～下旬

◆ 演目一覧

宮入り

注連鬼神

四人神師

剣舞

地割

杵舞

一番舞

柴鬼神

繰り降り

ろんぎ

地割鬼神

祝詞

三笠舞

柴舞

三笠鬼神

輪舞

戸開き鬼神

蛇切り

神体舞

蠅追い

三本剣

三人脇入れ

めご舞

昇神

素褌脱ぎ

岩通し

相撲舞

薙刀舞

箕取り舞

※平成30年(2018)3月に奉納された演目に基づく

(「方謝舞」が船引神楽基本の舞であるが、この年は舞われなかった)

◆ 演目の特徴

県北に多く継承される冬季の夜神楽が、記紀神話の岩戸開きに重きを置くのに対し、この日神楽は稲作豊穰の予祝として「三笠舞(田植舞)」「三笠鬼神」「めご舞」「箕取り舞」「杵舞」などの作祈禱神楽(作神楽)を中心に奉納される。「めご舞」は採り物に関連し、国生み、男女和合、農耕文化の起源を説き、神主と問答を行う。最後は神歌を歌いながら舞庭を巡り、藁苞の種籾を蒔く。平地稲作地帯では、めご面役は「田の神」として登場することが多いが、船引神楽では稲蒼魂命の託宣役とされる。岩戸開き関連の演目として「神体舞」「注連鬼神」「ろんぎ」「戸開き鬼神」などを有する。

◆ その他の特徴

- 面... 神体舞、注連鬼神、柴鬼神、三笠鬼神、地割鬼神、戸開き鬼神、めご舞(稲蒼魂命)、七鬼神 等
- 楽... 太鼓、笛、すり鉦
- 装束... 白衣、白袴、狩衣、素襖、着物、裁着袴、襷、毛頭、烏帽子 等
- 採り物... 鈴、扇、御幣、面棒、刀、薙刀、弓、矢、盆、杵、竹の輪、竝杵、箕 等
- 文書... 「維時明治二十七年甲午仲春写之 岩下張馬傳」
「県指定無形民俗文化財 船引神楽」(平成22年3月 船引神楽保存会) 等

◆ 伝承の現状・課題

平成31年(2019)現在、神楽保存会会員は14名。船引神楽は三十三番の番付を有しているが、舞子の都合で披露する番数は変わる。伝承のため3年の間に一度は番付の全てを舞う機会を作る。「相撲舞」などアクロバティックな番付は、若手でないと舞えない。20代から60代までの舞子がバランスよく在籍し、後継者育成にも力を入れている。

「九州の神楽シンポジウム2019」など、イベントにも積極的に参加し、伝承に努めている。



四人神師



三笠鬼神



箕取り舞